

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-22

学校名・団体名	福島市立御山小学校
HPアドレス	http://www.fukushima.gr.fks.ed.jp/?page_id=357
コース	学校支援
活動・研究テーマ	震災に負けるな！ルン・グン・バン レッツ体育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>業間運動を通して運動の日常化・習慣化を図り、自分から進んで運動に取り組む態度を養い、生涯に渡って運動に親しむ素地を培うことができる。また、体育の授業の充実を図ることによって体力・運動能力の向上を図り、友達との学び合いを通して、互いのよさを認め合いながら明るく楽しい充実した学校生活を送ることができる。これらの取組を通して、震災によって低下した体力・運動能力の向上を図ることはもちろん、今後も続くと考えられる様々な困難に前向きに立ち向かっていくことのできる強い精神力と忍耐力も身につけていくことができる。</p>	

1 活動内容

【取組1】

- (1) 対象者 全校生
- (2) 教科等 業間運動「ルンルンタイム」10:10~10:30(20分間)
- (3) ねらい 体育の授業以外に運動する機会をつくり、体力の向上と運動の習慣化を図る。
- (4) 活動の特色
2校時と3校時の間の休み時間20分を使い、全校生が運動する時間とする。低・中・高学年の3班に分け、走る運動を中心に校庭と体育館を使って実施する。
- (5) 活動時期及び内容
毎週月・水・金に実施し、ローテーションによるサーキット運動として短い時間の中で運動の走・跳・投の様々な運動に取り組めるようにした。今年度は昨年度の反省からさらに遊びを取り入れながら子供たちが楽しく運動に親しめるよう「昔遊び」なども取り入れた。震災以降運動する機会が減少した子供たちにとっては、リズムカルな動きや巧みな動きが苦手である。これらの動きがスムーズにできるようにするために、昨年度同様購入した教材を有効に活用した。



〈ラダーリズム遊び〉



〈なわとび〉



〈全校マラソン〉

【ルンルンタイム】



〈ダッシュ走〉



〈遊具遊び〉



〈全校ダンス〉



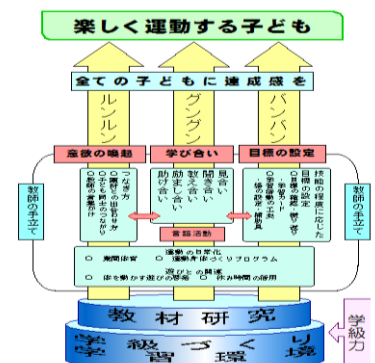
〈昔遊び〉

【取組2】

- (1) 対象者 全校生
- (2) 教科等 体育科
低学年「走・跳の運動遊び」・中学年「走・跳の運動」・高学年「陸上運動」
- (3) ねらい 体力の向上と学び合いを通した楽しく明るい学校生活を営む態度を養う。
- (4) 活動の特色
今年度も重点領域を走・跳の運動領域としたことから、購入希望した教材を発達段階に応じて全学年の準備運動と補助運動で用いた。また、体育の授業においても学び合う場を設定し、互いのよさを認め合いながら高め合っているようにした。

(5) 活動時期及び内容

- 第1学年 5・9月「くねくね走」、9月「跳の運動遊び」
- 第2学年 6・10月「ハードルリレー」、10月「高跳び遊び」
- 第3学年 5月「かけっこ・リレー」、6月「走り幅跳び」
10月「小型ハードル走」
- 第4学年 5月「かけっこ・リレー」、10月「走り高跳び」
11月「小型ハードル走」
- 第5学年 5月「短距離走・リレー」、10月「ハードル走」
11月「走り幅跳び」
- 第6学年 5月「短距離走・リレー」、10月「ハードル走」
11月「走り高跳び」



〈実践した事例〉

◆第1学年「走・跳の運動遊び」(ピョンピョンランド)

①ねらい 友達と協力して、いろいろなコースをつくったり、上手な走り方をしている友達を賞賛したりしながら、楽しく競走する。

②授業の流れ

- ・めあての確認(「やってみたい」からめあてをつくり出す姿)
- ・準備運動と補助運動
(いろいろな方向への動きを高める姿)
- ・試しながらジグザグリレーのコースをつくる。
(試行錯誤しながら学び合う姿)
- ・コースを交換しながらリレーをする。(応援し、認め合う姿)



◆第3学年「走・跳の運動」(走り幅跳び)

①ねらい 短い助走から調子よく踏み切って、遠くへ跳ぶことができる。

②授業の流れ

- ・準備運動と補助運動(調子よく走る・跳ぶ姿)
- ・つまずきからめあての設定(助走・踏切・着地)
(つまずきを解決するための方法を考える姿)
- ・「ジャンプでピンゴ」ゲームから幅跳びを楽しむ。
(互いに見合いながら学び合う姿)
- ・まとめ(友達のよさを賞賛する姿)



◆第5学年「陸上運動」(ハードル走)

①ねらい いくつかのハードルを調子よく、リズムカルに跳び越す楽しさを味わうことができる。

②授業の流れ

- ・めあての確認(自分の言葉で表現できる姿)
- ・準備運動と補助運動
(購入した教材を使ってリズムカルな動きを高める姿)
- ・自分の能力に応じたコースでの練習
(互いに見合いながら学び合っていく姿)
- ・記録会(自分の伸びを確認する姿→自己達成感・成就感)



2 成果と子供たちへの効果

震災以降多くの方々から支援をいただき、学校はこの6年の間に元の姿に戻ってきている。しかし、本校の子供たちの実態を見てみると、外に出て遊ぶ子とそうでない子の二極化が顕在化し運動経験不足による体力・運動能力の低下が見られた。

そこで、本校の校歌の一節であるルンルン・グングン・バンバンを合い言葉に、自己達成感・成就感から運動の楽しさを知り、主体的に取り組もうとする子供の育成を図ろうとした。

業間運動では、昨年度の反省から遊び感覚の運動を数多く取り入れ、より楽しく運動に取り組めるようにした。その結果運動の日常化・習慣化が図られ、休み時間なども自分から進んで運動に取り組む姿が見られるようになってきた。生涯に渡って運動に親しむ素地を培うことができたと感じている。校舎内の掲示物にも工夫を凝らし、運動を身近に感じる環境を整えた。

体育の授業についても、友達との学び合いを通して、互いのよさを認め合いながら明るく楽しい充実した学校生活を送ることができるようになってきた。2年継続しての研究は、体力・運動能力の向上を図るとともに、何よりも友達とともに運動する喜びを感じることができるようになった。

学校では昨年度以上に笑顔が増え、友達と一緒に校庭で遊ぶ姿がいつも見られるようになった。各種運動でも自分のめあてをしっかりともち、それに向かって精一杯努力している。震災から6年、今後も続くと考えられる様々な困難に前向きに立ち向かっていくことのできる強い精神力と忍耐力が着実に自分の力として身につけてきていることを教師も子供たちも保護者も地域の方々も感じてきた2年間であった。教育振興助成に感謝の気持ちで一杯である。

